認定医ケースプレゼンテーション抄録

歯冠内アタッチメントを用い天然歯と連結したインプラント補綴症例

平 曜輔

A Clinical Case Report of Implant Supported Restoration Connected with Natural Tooth Using an Intracoronal Attachment

Taira Yohsuke

I. 症例の概要

患者：33歳（初診時），女性。

初診：平成2年7月。

主訴：右下臼歯部ブリッジの動揺。

⑦⑥⑤ブリッジの動揺を主訴に来院された。⑦は失活歯であり，装着されている築造体の周囲と全部铸造冠の辺縁には，齶蝕による著しい歯質の崩壊が認められた。

II. 診断と治療方針

⑦はC₄で抜歯適応であること（図1），局部床義歯やインプラントを用いた補綴が考えられることを患者に説明した。抜歯後⑦⑥暫間義歯を装着したうえで再度確認したところ，インプラントによる治療を希望された。問診，視診，触診，研究用模型による診査，さらに抜歯から7カ月後に下顎骨を試験穿針してパノラマX線撮影を行い，検討した結果，インプラント埋入可能と判断した（図2）。また，⑦はC₂，⑥⑦はC₃であった。

III. 治療内容

平成2年7月，⑤の遠心部でブリッジを切断，除去し，⑦を抜歯した。平成3年3月，⑥遠心相当部にIMZシステム（フリアダント）のインプラント体（直径4mm，長さ13mm）を1本埋入し，10月に上部構造を装着した。上部構造は⑦⑥⑤ブリッジに準じた形態とし，⑥ポンティックと⑤修復物の間にアタッチメント（ペーラー，井上アタッチメント）を用いた。⑥⑦は抜髄と支台築造を施し，全部铸造冠を装着した。⑦はコンポジットレジンで修復した。

IV. 経過観察と考察

上部構造装着から2週間，1，3カ月後，以降は6カ月おきに経過を観察した。今回用いたスライド式アタッチメントは，スクリー固定式のようにごく小さなスクリーは使用しないため，内部可動性緩圧機構（IME）交換の際は誤飲させる心配が少なく，上部構造の着脱も比較的容易であった。口腔内から撤去されたIMEや粘膜貫通延長部（TIE）の表面には，プラークなどの汚染物質が付着しているのが観察された。

上部構造の装着から11年経過後はインプラント周囲歯肉がわずかに退縮していたこと以外は，インプラントと⑤支台歯そして上部構造に著明な変化は認められず，良好に機能していた（図3）。

一般に骨結合型インプラントと天然歯を連結した場

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻発生分化機能再
建学講座摂食機能回復診断治療学分野

Division of Fixed Prosthodontics and Oral Rehabilitation,
Department of Developmental and Reconstructive Medicine,
Course of Medical and Dental Sciences, Nagasaki University
Graduate School of Biomedical Sciences

図 1 Dental X-ray radiography at the first examination
初診時のデンタル X 線写真

図 2 Intraoral views and orthopantomography before the treatment with dental implant
インプラント処置前の口腔内写真とパノラマ X 線写真

合、インプラントの破折、骨吸収、天然歯の破折、二次齲蝕などの偶発症が報告されている¹⁾。また、荷重時のインプラントと天然歯の変位量の差が原因で天然歯が沈下し、スライド式アタッチメントに段差が生じること知られている²⁾。幸い本症例においては、このような偶発症は認められなかった。その理由として、プラークコントロールや咬合時に支台装置に加わる荷重とその方向に問題が少なかったこと³⁾、IME の被圧変位量が天然歯に近いこと⁴⁾、IME と TIE の交換を比較的短い 6 カ月間隔で行ったこと、アタッチメント部の摩擦力が適度に強かったことなどが推察され

図 3 Intraoral views and orthopantomography 11 years after the treatment
11 年経過後の口腔内写真とパノラマ X 線写真

る。

本インプラント体深部の表面はプラズマスプレー処理された粗面であるため、もし口腔内に露出すると、プラークコントロールが難しくなる可能性が高い。したがって、今後も引き続いて定期的な口腔清掃指導、咬合変化の観察と調整、歯肉退縮には特に注意を払わなければならないと考える。

文 献

- 1) 渡辺 浩, 松島弘季, 藤野 茂ほか. 骨結合型インプラントと天然歯の連結症例について. 日口腔インプラント誌 13: 146-154, 2000.
- 2) 澤瀬 隆. インプラントと天然歯の連結に考慮した一症例. 補綴誌 45: 452-453, 2001.
- 3) Esposito M, Hirsch JM, Lekholm U et al. Biological factors contributing to failures of osseointegrated oral implants. (I) Success criteria and epidemiology. Eur J Oral Sci 106: 527-551, 1998.
- 4) Haganman CR, Holmes DC, Aquilino SA et al. Deflection and stress distribution in three different IMZ abutment designs. J Prosthodont 6: 110-121, 1997.